

財務部

主要項目の動向

①

個人消費

前回との比較



一部に厳しい状況が続いているものの、持ち直しの動きがみられる。個人消費をみると、大型小売店販売額は、天候不順の影響があったものの、足下で持ち直しの動きがみられる。百貨店は、一部衣料品で品薄となるなど震災の影響があったものの、足下で主力の衣料品に動きがみられるほか、催事効果などにより持ち直しの動きがみられる。スーパーは、天候不順の影響があったものの、足下で主力の衣料品に動きがみられる。コンビニエ

主要項目の動向

②

観光

前回との比較



依然として厳しさがみられる。入域観光客数は、足下では減少幅は縮小しているものの、提供座席数の減少に加え、東日本大震災の影響による旅行マインの低下などから依然として前年を下回っている。ホテル客室稼働率及び客室単価は低下傾向が緩やかになってきているものの、依然として前年を下回っている。このように、観光は依然として厳しさがみられる。

主要項目の動向

③

雇用情勢

前回との比較



厳しさが増している

一般職業紹介状況を見ると、新規求人数は足下では医療・福祉を中心に持ち直しの兆しはあるものの、新規求職者数は大幅な増加を続けていることから、有効求人倍率（季節調整値）は低下している。

このように、雇用情勢は厳しさが増している。



総括判断

23年4-6月期(今回)

一部に持ち直しの動きがみられるものの、東日本大震災などの影響により、弱い動きが続いている

前回との比較



23年1-3月期(前回)

持ち直しの動きがみられたが、東日本大震災の影響により、足下で弱い動きがみられる

その他の項目の動向

■住宅建設

住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、貸家で前年を下回っているものの、持家、分譲で前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

■設備投資

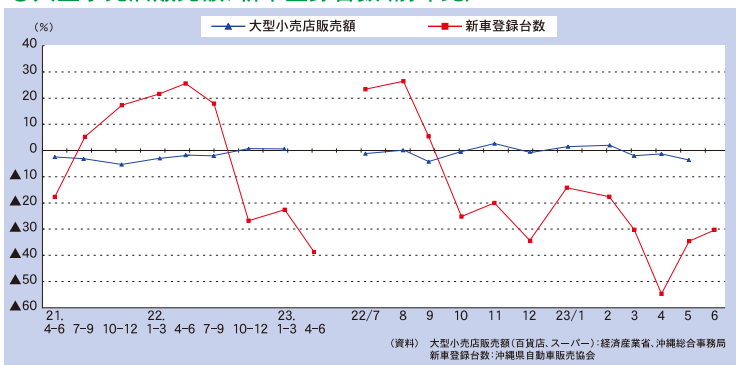
法人企業景気予測調査(23年4-6月期)でみると、全産業では前年度を5.8%下回る見通し(除く、石油・石炭、電気・ガス・水道では22.6%下回る見通し)となっている。

■公共事業

公共事業の動向を公共工事前払金保証請負額(累計)でみると、前年を下回っている。

仕事の窓

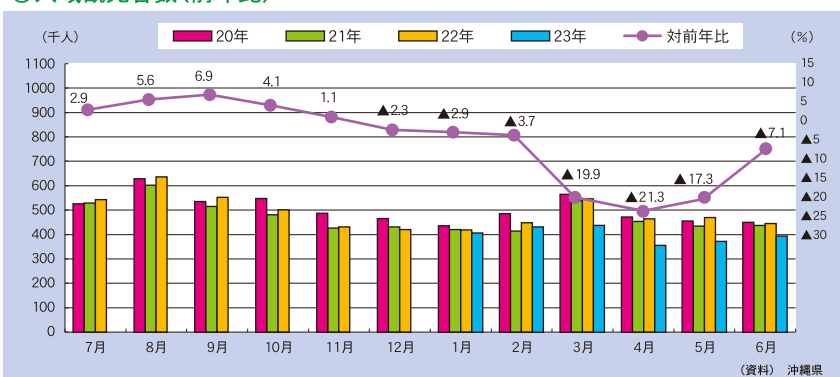
◎大型小売店販売額、新車登録台数(前年比)



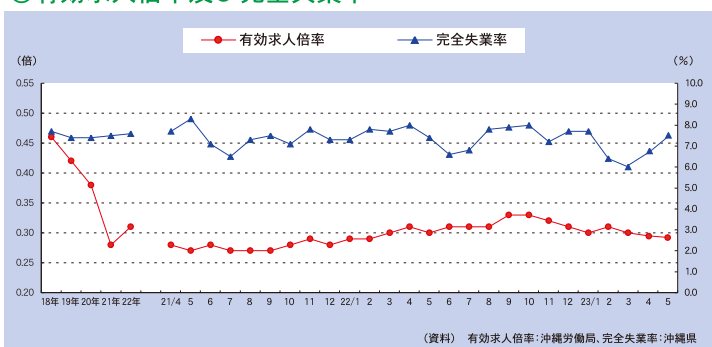
ンスストアは、供給制約の影響が依然としてみられるものの、タバコ価格改定効果などから前年を上回っている。新車販売は、供給制約の影響が依然としてみられ、厳しい状況が続いている。中古車販売は、足下では前年を上回ったものの、依然として在庫の品薄といった震災の影響がみられる。家電販売は、地デジ完全移行に伴う駆け込み需要や節電意識の高まりから省エネ家電の需要がみられる。

このように、個人消費は、一部に厳しい状況が続いているものの、持ち直しの動きがみられる。

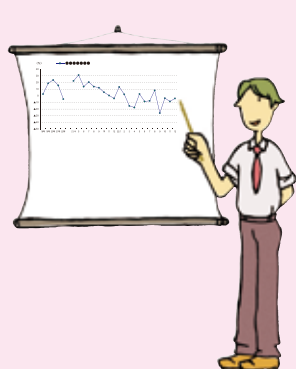
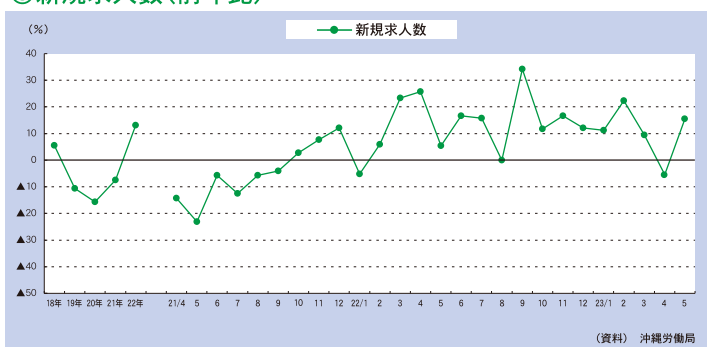
◎入域観光客数(前年比)



◎有効求人倍率及び完全失業率



◎新規求人数(前年比)



■企業の景況感 法人企業景況予測調査(23年4～6月期)でみると、製造業では「上昇」とする企業が減少していることから「下降」超に転じている。非製造業では、サービス、卸・小売などで「下降」とする企業が増加していることから「下降」超に転じている。

この結果、全産業では、「下降」超に転じている。

■企業収益 法人企業景況予測調査(23年4～6月期)でみると、23年度上期は、全産業で13.8%の減益見込みとなっている。

23年度下期は、全産業で5.3%の減益見通しとなっている。

23年度通期は、全産業で10.1%の減益見通しとなっている。

■生産活動 製造業の生産活動は、金属製品、鉄鋼では、アルミ建材の出荷が前年を上回っているものの、棒鋼の出荷は前年を下回っており、窯業・土石では、生コンの出荷は前年を下回っている。食料品では、食肉加工品や酒類の一部が前年を上回っているものの、全体では低調となっている。

このように、生産活動は弱含みで推移している。